

特集

変わる！ 学びの環境 深化する！



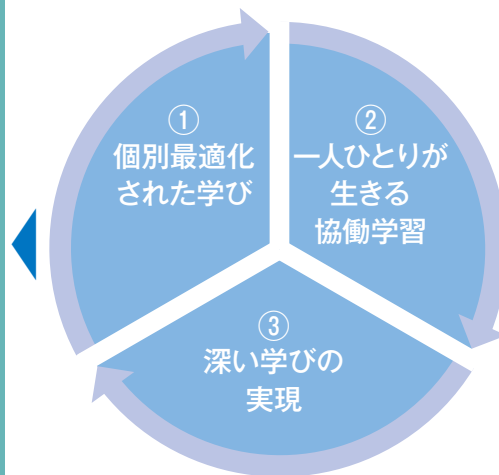
国は、1人1台の情報端末環境を、令和の時代における学校の「スタンダード」として位置づけ、最先端のICT教育を活用したGIGAスクール構想を進めています。本市においても、昨年12月に全ての市立小・中・義務教育学校で1人1台のタブレット端末を整備し、ICT機器を活用した授業に取り組んでいます。進化する学校教育の環境をご紹介します。

※ICT…パソコンやアプリケーションソフトを活用した情報のやりとりのこと。

本市の教育実践×ICT = 学びの深化・転換

→教育にICTを活用することにより、さまざまな可能性が広がり、学びをより豊かにします。

- ① 児童・生徒が同時に別々の内容を学習したり、学習履歴を記録したりすることにより、それぞれの理解度に応じた個別学習や指導が可能になります。
- ② 各自の考えをお互いにリアルタイムで共有し、児童・生徒同士で双方向の意見交換が可能になり、共に学び合う協働学習が可能になります。
- ③ インターネットを使った調べ学習やプレゼンテーション作成などの学習が日常的に行え、より深い学びの実現が期待できます。



GIGAスクール構想とは

1人1台の端末を整備することで、多様な児童・生徒に対し、個別最適化された教育環境の実現をめざした取り組みです。

※「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をとっています。

GIGAスクール構想実現に向けた環境整備

本市では、令和2年度から環境整備に取り組んできました。当初、国の計画では令和5年が完了目標でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響でIT化が急速に進む中、令和3年3月に前倒しされたことを受け、本市でも令和2年12月までに全学校で整備を完了しました。

校内通信ネットワークの整備

クラスの児童・生徒が一度に利用しても円滑に端末を操作できるための大容量の高速通信ネットワーク環境を、各教室に整備しました。



1人1台のタブレット端末

小学1～3年生はゴム製カバー付き(写真左)、小学4年生～中学3年生はキーボード一体型カバーケース付き端末を使用します。



タブレット格納庫の設置

適切な管理のため、各教室に充電・保管用キャビネットを設置。



家庭学習にも活用予定



今後は家庭学習においても効果的にタブレット端末を活用できるように準備を進めていきます。

Voice

「豊かな学び」を創っていきます。
教員・保護者の皆さまと一緒に

新しい学習指導要領が小学校では令和2年度から始まり、中学校では令和3年度からスタートします。従来の学校教育では先生が一律に教える授業が中心でしたが、新学習指導要領では主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点から「何を学ぶか」だけでなく、子どもたちが能動的に学んでいく授業に変えていくことが求められています。今回の1人1台のタブレット端末の導入は、その授業を変えていく大きなきっかけになると考えています。

タブレット端末を活用して子どもたちが楽しく、より豊かに学べるような授業にするにはどうすれば良いか。全国的に先行している事例を取り入れながら、池田の子



教育センター
指導主事 中野 正敏

どもたちに合った新しい授業の実践を蓄積していくことが重要です。先生方と一緒にICTを活用した授業の研究を進めていきます。

現在、タブレット端末の活用は学内を中心に行っていますが、今後は家庭学習での活用も予定しています。家庭での活用では保護者の皆さまのご理解・ご協力をいただかなければなりません。保護者の皆さまとも連携しながら、新しい授業や家庭学習で「豊かな学び」を創っていきけるよう、取り組みを推進していきます。

タブレット端末の活用で変わる授業の風景

— 実際の活用例を紹介 —

1人1台のタブレット端末が導入され、実際の授業の様子はどうのように変わっていくのか。タブレット端末とあわせて導入されているアプリやツールと一緒に紹介します。

検索サイトやカメラを使って

検索サイトなどから、子どもたちが知りたい情報を主体的に検索・収集・選択。カメラで撮影した画像も、先生・クラスメートとすぐに共有したり、編集できるように。



図工の時間、写真を撮りアニメーション動画を作成中

補助機材として活用

タブレットPC用ドリル教材「タブレットドリル」を活用し、一人ひとりにあった学習をサポート。小・中学生向けの約70,000問を収録し、視覚的に解答履歴を確認しつつ、苦手な単元の反復学習や解説を動画視聴することができます。



小学5年生
算数の目次画面

小学5年生
英語の解説画面



直感的な操作で学習意欲を向上

「ロイロノート・スクール」というアプリを利用して、板書や考えを書いたアプリ上のカードを簡単な操作でつなぎ合わせ、思考の整理をサポートすることができます。作ったカードはクラスで共有でき、蓄積されたカードで

子ども自身が成果を実感し、学習意欲が高まります。

また、考える力を育むための思考ツールも搭載。さまざまな授業で先生と子どもたちをサポートします。



解答を記入したカードを、ドラッグ操作で先生へ提出



先生から配信される教材をもとに授業を受ける

タブレット端末を活用することで、 より活発な授業になっています。

神田小学校では令和2年6月から先行して一部の授業でタブレット端末を使い始め、11月末には全校に導入されました。現在では、1年生から6年生まで全ての教科でほぼ毎日タブレット



神田小学校
教諭 樋口 綾香

ト端末を使った授業を行っています。

私が担当する国語の授業では、例えば、文章を読んで考えたことをタブレット端末で提出してもらい、それを電子黒板に表示して「○○さんはこんな風に考えています。その考えの理由は分かるかな」と、みんなに意見を発表してもらいます。特に手を挙げて意見を言うことが恥ずかしいと感じている子も、タブレットなら自分の意見を抵抗なく書き、提出できるという良さがあります。タブレットを使って考え

を共有することで、授業はより活発になりました。国語は答えを出すまでの考える過程が大事な教科ですから、多様な考え方に触れ、クラスみんなで共有することが簡単にできるタブレットには大きなメリットがあると思います。

本市は、全国的に見ても素晴らしいICT教育環境が整備されています。それを活用することによって、子どもたちがより深い学びを得られる授業にしていくことを、追求していきます。

ICTのさらなる活用に向けて

大型電子黒板の設置

以前から21世紀にふさわしい教育環境づくりを進めてきた本市。平成29年8月には、全ての公立学校普通教室に、65インチの電子黒板を1台ずつ整備しました。



子どもたちの解答を電子黒板に一斉表示

タブレット利用について、子どもたちの声

神田小学校で全児童に実施したアンケートでは、1人1台端末の活用で

- ・学習に対して意欲的に取り組むことができる…96%
- ・授業で自分の考えを練り直したり、さらに深めることができる…89%

など、端末を活用した授業に好評な意見が多数を占めました。

今後も効果的な活用方法を検討していくとともに、情報モラルなどについての指導の充実にも取り組みます。
※アンケート結果は一部抜粋。



小学校の体育授業サポート

本市と包括連携協定を結んでいるソフトバンク(株)の協力により、運動の様子を専門コーチに動画で送り、アドバイスをもらう遠隔授業サポートを実施。授業の進め方や指導のコツなども、専門コーチにオンラインで相談でき、子どもたちの体力・意欲の向上につながっています。

問い合わせ：教育センター ☎ 751・4971